

第38回

うつのみやこども賞だより

令和3年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ろくぶんの、ナナ』

林 けんじろう／作 (岩崎書店)

～読んだ本の感想より～



令和3年10月3日

- サイコロの目に名前を付けているナナちゃんがとっても可愛いと思いました。
- サイコロにそれぞれ性格があるのが面白いです。
- サイコロの1つ1つの目にそれぞれ性格のちがう面というのがおもしろかった。また、サイコロをつかってポポちゃんさがすというのがすごく感動した！
- 1, 2, 3, 4, 5, 6がそれぞれちがう性格で楽しかった。あの不思議なお店に行ってみたくと思った。サイコロと話す時のナナがとっても楽しそうだった。
- サイコロと会話できるのは、すごいなーと思った。サイコロの目ひとつひとつにいろんな性格があって、おもしろかった。私もこういうサイコロがあったらいいなと思った。

『風神風鈴物語』

夏也 園子／著 (PHP研究所)

- この風鈴町の神さまのおはなしをよんで、神さまは本当にいるのかなと思いました。1年1年の物語がつながっていておもしろかったです。
- 目次によって主人公が代わっていったので、いろいろな視点から見る事ができました。とくに私は2つ目のお話「風子さんと友達！」という物語が良いと思いました。
- 章が変わるごとに何年か進んでいたり、視点も変わっているのとても読みやすく、人を助けるというような話が多くて感動しました。
- 完成したばかりの飛行機をかたんにこわされたけどあきらめず、初めて作った飛行機より大きな飛行機を作るなんて、すごいメンタルだなと思った。

『ベランダに手をふって』

葉山 エミ／作 (講談社)

- こういう家族いいなと思った。「お母さん、傷つくかな。」とたくさん考えられる輝はとっても優しいなと思った。
- お母さんとの毎日の習慣はうちにはないので、少し真似してみたいと思いました。また、自分の恋よりも相手の挑戦を優先する主人公を尊敬しました。
- 運動会の時、輝が「香帆ちゃんのお母さんが来られない時は、おじさんと走っていいよ」とやさしい言葉をかけていてすごかったです。
- ベランダから見送られるのを「今日で最後」といって、さびしいのはぼくのほうだったと書いてある時に、本当は見送られるのがうれしかったのだと思って感動した。

『サマークエスト』

北山 千尋／作 (フレーベル館)

- どうして父ちゃんが海で死んだかを知らないままにされていて、だれにも聞けなかったヒロキがかわいそうで感動した。
- なんで今までかくしていたんだと私も聞きたくなってしまったし、おじさんをせめたくなくなってしまったけれど、ヒロキは事実を受け入れていてすごかったです。
- 夏の冒険だから、「サマークエスト」。この冒険は、主人公にとって一生の宝物になるのではないかと思います。
- 主人公のヒロキと友達の新がそれぞれの大切なことを成しとげるために冒険していたところがかっこいいなと思いました。